

福祉部会 「さおり・たまも」の活動に参加しませんか？



たまも園にて



活動は月に一度、おもに第2水曜日です。



一緒に活動しませんか？

「さおり・たまも」は、2001年手芸の好きな数人が集まり、作品作りを始めました。

その頃「授産施設」であった「たまも園」では、園生が織ったさおり織りの布を使って、私たちはペンケースやポーチ、トートバッグなど、いろいろな作品作りに取り組んでまいりました。

当初から活動に参加された方々は、本当にさおりのボランティアが好きで、手弁当で、情熱を持って手芸品の数々を作り、その作品が、しあわせの村本館の売店や、バザーなどのイベントのたびに売り出され人気の商品となりました。

収益は園生の方々の支援に役立てられています。「わ」の総会の時も、たくさんの方々に作品を買っていただき、活動を支えていただいています。

たまも園は、現在「障がい者生活介護事業所」となり、通所されている方々の年齢も上がり、特にコロナ後には製菓などの作業も少なくなりました。しかしさおり織りや刺し子などの手芸は今も続けられており、園にはまだ、さおりの布がたくさんあります。



不思議な魅力のさおり織り



園生の方々が好きなデザインで楽しく織った布の良さを生かしながら、作品を仕上げているのが、私たちボランティアの仕事です。工夫を凝らし試行錯誤しながら、どこにもない面白い作品に仕上げたいと思いながら取り組む一日は、とても充実したひとときです。

コロナ前は、腕の確かな80代半ばの方たちに支えられていましたが、コロナ後にはもう参加できなくなり、今はまだ経験の浅い6名で活動を続けています。このような状況ですので、なかなか思うように仕上がらないのが悩みの種です。

特にコロナ後、世の中の動きが活発になり、さおりの多くの作品の問い合わせがお客様から寄せられようになりました。しかしこのお客様の要望に応えられていないのが現状でとても残念に思っています。

この活動に、あと4-5名の方が参加していただければ、お客様の要望に応えられるのではと思います。洋裁の技術がなくても好きでさえあれば、いろいろな工程がありますので、経験者でなくても活動に参加できます。ぜひ参加してください。毎回でき上がった作品を見るのが喜びです。「さおり」には不思議な魅力があり、やっていくとどんどん好きになるのが実感できると確信しています。

月に一度、おもに第2水曜日、10時から昼休みをはさんで15時までです。お弁当、おやつのおしゃべりの時間も楽しいです。どうぞご参加お待ちしております。

さおり・たまも 代表 神澤 のり子